

第1学年 英語科学習指導案

日時：平成27年12月4日(金)5校時
時間：13:50 ~ 14:40
学級：1年1組(男10・女1計11名)
指導者：(T1) 湧川 多絵
(T2) 中村 寛

1 単元名 TOTAL ENGLISH New Edition1 (学校図書)
Chapter 2 Lesson 6 アメリカの中学校

2 宮古地区ブロック型研究会について

(1) 研究テーマ

表現する意欲と力を高める授業の工夫改善
～評価方法の工夫を通して～

(2) テーマ設定の理由

学習指導要領改訂の基本的な考え方、諸調査の結果から、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」が求められている。

4技能をバランスよく育成することを念頭に、本研究では主に「話すこと」「書くこと」に焦点をあて、主体的にコミュニケーションを図る生徒の育成を目指す。そのために表現する意欲を高める指導方法の工夫を通して、言語活動の充実を図れば生徒の表現する意欲と力を高めることができるであろうと考え、本テーマを設定した。

(3) 研究の仮説

「今日の一文」やパフォーマンステストなどの表現活動において、「英語で伝わる喜び」「言えなくてくやしい思い」「達成感」などを擬似体験することで、「もっと伝えたい」という表現意欲が高まるであろう。

(4) 仮説の検証

- ① 単元テスト・パフォーマンステストによる評価を行う。
- ② 「今日の一文」の効果を実験テストおよび定期テストで検証する。
- ③ アンケートを実施し、生徒の変容（表現する意欲等）を把握する。

(5) 研究の方法

理論研究

- ① 各学校において、「今日の一文」「単元テスト」「パフォーマンステスト」等を活用した指導方法について話し合う。

実践研究

- ① 各学年の「今日の一文」および「単元テスト」等の情報共有を行う。
- ② 宮古地区中学校英語教育研究会と連携を図り、授業研究会を実施し、意見交換や情報交換を行う。
- ③ 文部科学省教科調査官や講師を招聘し、研究授業の指導助言を仰ぎ、授業改善を図っていく。

(6) 共通取組事項

生徒の実態把握

- ① 各学校における生徒の実態を把握するため、共通アンケートを実施する。
- ② CAN-DO チェックの実施（定期テスト2週間～4週間後）

共通実践

- ① 毎時間の授業のまとめにおける「今日の一文」の実施
- ② 県学力到達度調査の形式に沿った「単元テスト」「定期テスト」の作成・実施
- ③ パフォーマンステストの実施

(7) 研修成果の検証

- ① アンケート・CAN-DO チェック等による生徒の実態把握
- ② ブロック型研究会成果報告にて、これまでの取組や研究概要を提示し、成果・課題・対応策について検討し報告する。
- ③ 沖縄県学力到達度調査において結果責任を果たす。

3 単元及び教材について

(1) 単元の指導目標

- ① 疑問詞 Where や S+V+O(代名詞)を用いて、口頭で相手に尋ねたり、答えたりすることができる。
- ② 疑問詞 Where を用いた表現で、間違いを恐れずにインタビュー活動等を行うことができる。
- ③ 疑問詞 Where を用いた文構造を理解することができる。

(2) 教材観

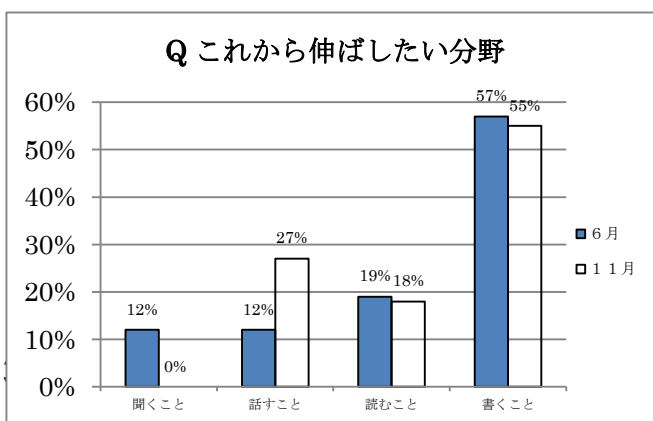
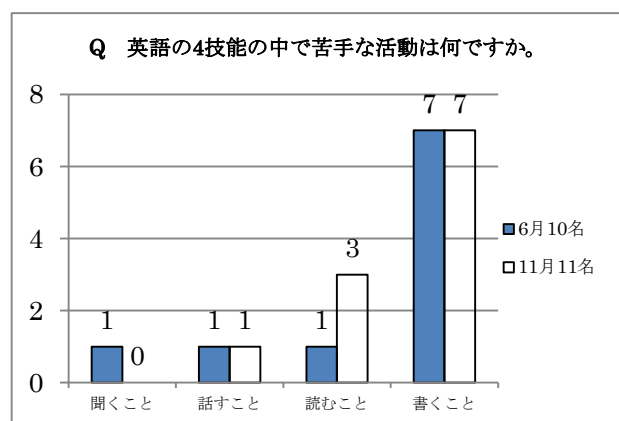
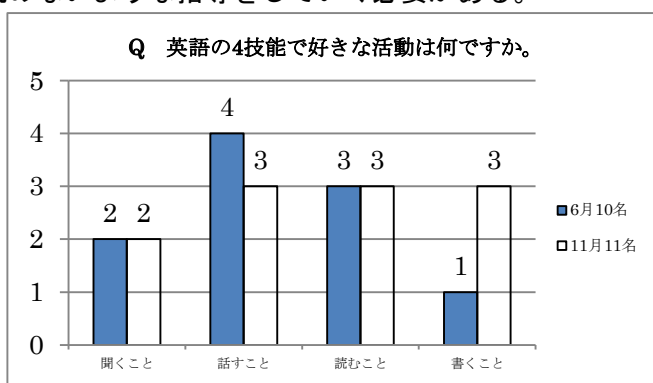
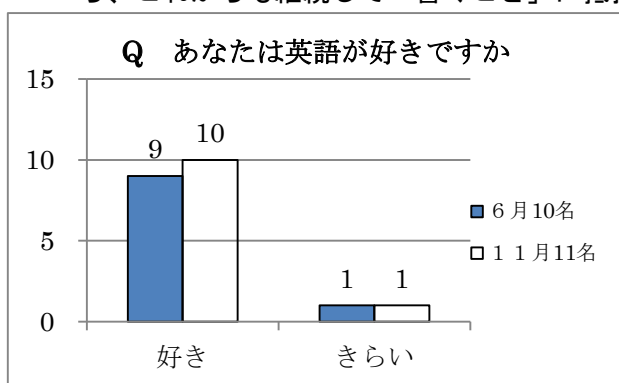
登場人物たちの会話や説明文から日本とアメリカの学校の違いに気付かせる内容であり、異文化に対する興味・関心を高めることができる。また、言語材料として複数主語、疑問詞 where を用いた表現等を扱っている。中でも疑問詞 where の表現については、小学校の外国語活動(“Hi, friends! 2” Lesson 4 “Where is~?” Lesson5 “Where do you~?”)で触れており、道案内や行きたい国についてのインタビュー活動など、本単元の素地となる「聞く」「話す」活動を小学校で行っている。生徒にとって、小学校での学びを中学校で発展させるという学習の連携が実感できる単元である。そこで、本単元では主に Where を用いた表現を活用し、インタビュー活動等を通して、適切に尋ねたり答えたりする力を付けたい。

(3) 生徒観

本クラスは、英語学習を小学校の時から意欲的に取り組んできており、1学期の英語学習もスムーズに始められた生徒がほとんどである。授業中の発言も活発で、知っている単語を使いながら英語を積極的に話そうとする態度が見られる。スピーキングアクティビティでも、ジェスチャーやアドリブも加えて楽しく言語活動を行うことができる。また、定期テストや単元テストでも約7割の生徒が高い正答率を維持している。

6月と10月に実施したアンケートでは、以下のグラフの通りである。

「4技能の中で一番好きな活動は何ですか。」という問いに対し、6月は「話すこと」が一番多かったが、入学当初は音声でしか分からなかった単語が英単語として読み書きできるようになったことで、11月のアンケートでは4技能それぞれに分散したと思われる。特に、「書くこと」と答えた生徒が多くなった理由として、9月から毎日行っている「コツコツ ENGLISH」(英文を6種類30文ノート1ページに書く)の活動が定着してきて、書くことに自信が付いてきた生徒がいるためだと思われる。しかしながら、一番苦手な活動も「書くこと」と答えている生徒が多いことから、これからも継続して「書くこと」に抵抗のないような指導をしていく必要がある。



(4) 指導観

三人称単数の主語と動詞の活用を全単元で学習したばかりなので、新出文法の複数主語と混同しないよう配慮が必要である。

本単元のレディネスに関する質問において、小学校の外国語活動で学習した表現を調べてみたが、やはり小学校でALTとのやりとりを積極的に行っていたことからすると、73%の生徒がWhereの使い方を覚えており、自信があると答えている。また、行き方については82%の生徒が自信を持っており、どこへ行きたいかを聞くことも半数以上が「できるだろう」と答えている。

このことから、本単元で指導するWhereについても導入から理解は早いだろうと考え、言語活動を踏まえて、中学校として学ぶ文法の定着を図りたい。また、本単元は日本とアメリカの学校生活の違いを学べる機会となるので、アメリカの学校生活の様子動画等を活用し内容理解を深め、更に自分たちの学校を英文で紹介させる活動を行うことで表現する意欲を高めていきたい。

本単元のレディネスに関する質問	選択肢	回答率
(1) 「〇〇はどこですか」と尋ねることができる (Hi, Friends! Lesson 4)	自信がある	9%
	どちらかと言えば自信がある	64%
	どちらかと言えば自信がない	27%
	自信がない	0%
(2) 「真っ直ぐ行く」「右に曲がる」「左に曲がる」と行き方を伝えることができる。 (Hi, Friends! Lesson 4)	自信がある	27%
	どちらかと言えば自信がある	55%
	どちらかと言えば自信がない	18%
	自信がない	0%
(3) 「どこに行きたいですか」と尋ねることができる。 (Hi, Friends! Lesson 5)	自信がある	0%
	どちらかと言えば自信がある	55%
	どちらかと言えば自信がない	45%
	自信がない	0%

4 本単元における指導方法等工夫改善

(1) ITでの指導

生徒の実態を把握し、個に応じたきめ細やかな指導を行う。また、努力を要する生徒への指導・支援を行うことで、一人ひとりに「わかる授業」づくりを行う。

(2) 自己評価シートの活用 — 「今日の一文」

毎時行っている自己評価シート「今日の一文」を活用し、目標と振り返りまでに一貫性を持たせることで、生徒の自己表現意欲・能力を高める手立てとする。

(3) 単元テストの活用

単元テストを実施することで、生徒の実態把握と指導の工夫改善を行い、生徒の達成感や主体的に学ぶ意欲を高める。

(4) CAN-DO チェックの活用 (生徒用自己評価リスト)

定期テスト終了後に CAN-DO リストによる自己評価を行い、生徒一人ひとりの理解度を確認し、授業改善や個に応じた指導に役立てる。

(5) 学習形態の工夫

学び合いができるよう、また、指導の観点からもコの字型で座席配置を工夫している。

5 単元の評価規準

ア) コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ) 外国語表現の能力	ウ) 外国語理解の能力	エ) 言語や文化についての 知識・理解
① 間違えることを恐れず活動している。(言語活動への取組)	① 疑問詞 where や S+V+O の文を用いて、質問と応答をすることができる。(正確な発話)	/	① 疑問詞 where を用いた文構造を理解している。(言語についての知識)

6 単元の指導と評価計画 (9時間)

	学習活動の内容	評価規準				評価方法
		関	表	理	知	
1	【Lesson 6 - A 内容理解】 ・新出語句の発音・意味を理解する。 ・本文を聞いたり読んだりすることで、ジャックの家でのジャックたちの行動や、ウェブサイトの内容を理解する。 【複数主語を用いた文の導入】 ・複数主語の文の構造を理解する。 ・クラスワーク(Interview)の結果を複数主語を用いて文に書く。 They are / like ~?		◎	◎	○	観察 ワークシート 観察 Q & A
2	【疑問詞 where を用いた文の導入①】 ・疑問詞 where を用いた文の文構造を理解する。 ・Where is ~ ? の口頭練習を行う。 (スピードインプット)				◎	観察 ワークシート
3	【疑問詞 where を用いた文の導入②】 ・疑問詞 where を用いた文の文構造を理解する。 ・Where do ~ ? の口頭練習を行う。 (スピードインプット)					
4 (本)	【疑問詞 where の復習】 ・疑問詞 where を用いてインタビュー活動を行う。 (宮古島のおすすめスポット調べ)		◎			観察 ワークシート
5	【Lesson 6 - B 内容理解】 ・新出語句の発音・意味を理解する。 ・本文を聞いたり読んだりすることで、アメリカの中学校の教室の配置や私物を置く場所を理解する。			◎		観察 Q & A
6	【S+V+O (代名詞) の導入】 ・S+V+O (代名詞) の文構造を理解する。 ・Tell me about ~. を用いて友達について尋ねたり答えたりすることができる。		◎		○	観察 ワークシート
7	【Lesson 6 - C 内容理解】 ・新出語句の発音・意味を理解する。 ・本文を聞いたり読んだりすることで、アメリカの中学校の昼食事情を理解する。			◎		観察 Q & A
8	【Lesson 6 のまとめ】 ・ビデオレターを通して、日本とアメリカの学校の違いについて確認する。 ・自分たちの学校の紹介文を表現することができる。(ペア活動)	○	◎		○	観察 ワークシート 自己評価
9	【Lesson 6 単元テスト】 ・既習表現(複数名詞・人称代名詞・疑問詞 where)を理解しているか確認することができる。 ・パフォーマンステスト(プレゼン)の準備	○	○	○	○	単元テスト

10	・パフォーマンステスト（プレゼン）	○	◎			パフォーマンステスト
----	-------------------	---	---	--	--	------------

7 本時の学習指導（4／9時間）

(1) 本時の学習到達目標（本時の CAN-DO）

- ① 宮古島のおすすめスポットについて疑問詞 where を用いてインタビューを行い、学び合い活動を通して発問と応答をすることができる。【外国語表現の能力】

(2) 授業仮説

「宮古島のおすすめスポット調べ」という目的を活動の場面としておき、一連の活動をする事により、活用の場面を実感すると共に疑問詞 where を用いた発問と応答するという目標に到達する事ができるであろう。

(3) 本時の展開

時間	指導過程	生徒の活動	教師の活動		☆評価の観点
			T1(Wakugawa)	T2(Nakamura)	
導入 (10分)	1. Greetings (3分)	・ 全員であいさつ ・ 日付等を答え、評価カードに書き込む	・ 生徒が答えた日付等を板書する。 ・ 前時の一文の解答	・ 口頭での質問	
	2. Warm-up (3分)	・ ペアで問題を出し合う。	・ 生徒の様子を見て、つまずきのある生徒を支援する。	・ 生徒とペア活動をする。	

展 開 (30分)	3. Teachers' Model Speech (12分)	<ul style="list-style-type: none"> 何について話しているのか考えながら、教師間の会話を聞く 教師の後から質問文をリピートする。 ワークシートに自分の答えを書き込んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動につながる対話をする。 <p>T1: Mr.Hiroshi, where is No.1 Miyako-soba restaurant? Where do you eat Miyako-soba? T2: I eat Miyako-soba at _____. Why? T1: Because my Canadian friends will come to Miyako next summer. And I want to know おすすめスポット in Miyako.</p>		
			<ul style="list-style-type: none"> インタビュー活動で質問する項目に関して生徒に読み方と意味を説明しながら、自分の解答をワークシートに書き込ませていく。 <p>Please tell us the meanings of No.1 question. And write your answer. ×(2-11 questions) So, today I want you to research of おすすめスポット in Miyako.</p>		
			<ul style="list-style-type: none"> 今日の目標を発表 		
	<p><u>Today's Goal</u> 宮古島のおすすめスポットが「どこか」たずねることができる！</p>				
		<ul style="list-style-type: none"> インタビューの仕方 & 流れをつかむ 	<ul style="list-style-type: none"> Model Talk ※プラスワンを加えてモデルを示す 		
	4. Interview ①インタビューの練習 (2分)	<ul style="list-style-type: none"> 会話の流れを把握する。 自分の担当質問を読むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現の意味を確認 担当の質問を割り振る。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの書き方指導をする。 	
	②Interview Vol.1 (6分)	<ul style="list-style-type: none"> 個人で割り当ての質問をし、ワークシートに記入していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導 	☆表①
	③Interview Vol.2 (7分)	<ul style="list-style-type: none"> 次のインタビュー活動のモデルを聞く 個人で担当の質問に関して質問及び発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 次のインタビュー活動のデモンストレーションを行う 机間指導 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導 	☆表①
	④Presentation of the Report (3分)	<ul style="list-style-type: none"> 各インタビューの結果から決まったおすすめスポットを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各インタビューの結果を疑問詞 where を用いて質問する 	<ul style="list-style-type: none"> 発表を支援する 	

まとめ (10分)	5.Consolidation ①本時のまとめ ②今日の一文		・ where の表現についてのまとめをする		
	③振り返り ④あいさつ	<p style="text-align: center;"><u>Today's Sentence</u></p> <p style="text-align: center;">友達にどこに住んでいるのか聞いてみよう！</p> <p>・「今日の一文」の英文を書く (本時の基本表現) ・本時の振り返り ・終わりのあいさつ</p>	・ 机間指導	・ 机間指導	

(4) 本時の評価方法

評価規準	評価の場面	評価方法
① 疑問詞 where を用いて、質問と応答をすることができたか。	Speaking 活動	観察 今日の1文

〈板書計画〉

Today's Goal

宮古島のおすすめスポットが「どこか」たずねることができる！

Where is No.1 _____ in Miyako?

Miyako-soba

bread

beach

play on weekends

cakes

stationeries

hamburgers

T-shirts

books

Omiyage

dinner

Day&Date&Weather

Friday
December 4th
sunny

Today's Goal Answer Check

(5) 本時の評価規準

	学習内容	評価規準 (B)	評価規準	
			十分満足できる(A)	Cの生徒への手だて
外国語表現の能力	・ 疑問詞 where を用いてインタビュー活動を行う。	・ 疑問詞 where を用いて、質問したり応答したりできる。	・ 疑問詞 where を用いて、正確な表現で質問したり、応答したりすることができる。	・ 机間指導を行い、活動に参加できるように支援する。